

続・ 珈琲の思い出 40

鈴木優子

「え？本当？それじゃ、私ヨガには行かない。和樹さんとドライブに行きたいから、ヨガサボっちゃうー」

「・・・！いいねえ♡」

「ふふふ、和樹さんはお仕事は何時に終わるの？」

「何時でもいいよ、優子さんに合わせるよ。」

「それじゃあ、本当はヨガ教室は19時〜20時までで、帰宅するのが普段は2時半なんだよね。」

「それじゃ、19時に駅の南口の横断歩道の脇まで迎えに行こうか？」

「いいの？ありがとう!!♡」

「ねえ、ドライブどこらへんに行きたい??」

「そうねえ、人の少ない静かな所がいいなあ。」

「OK！まかせて！」

和樹は携帯の画面に向かってガッツポーズをした。

「あ！今、なんかいやらしいこと想像したでしょ!？」

「そんなことないよ!!僕は真面目なサラリーマンだ!! キリッ!」

「真面目なサラリーマンが、旦那さんのいる女性を夜のドライブに誘うの?」と入力しかけて、優子はやめた。

そんな誘いに乗る自分も自分だ・・・。(続く)